

## 東日本大震災被災地の海中・海岸搜索を実施

東日本大震災津波から10年を前にした3月10日、当署は、釜石海上保安部、釜石大槌地区消防本部、岩手県警察本部嘱託警察犬指導手及び富士大学学生とともに、総勢73人で釜石市の箱崎魚港と根浜(ねばま)海岸における震災行方不明者の海中・海岸搜索を実施しました。

合同搜索開始式で仲谷署長は、「地元紙の震災アンケートで、不明者家族が一番必要な支援と感じているのは「継続的な搜索」で38%と最も多かった。また、「10年の節目と言うが、これまでの10年と、これからの10年は何も変わらない。願いは一つ、不明者の手がかりがほしい。そして、あきらめずに搜索を続ける警察官らの姿を見ると生きる勇気が湧く」という声がある。こうした願いに応えるため、手がかりに結びつく発見に努めてほしい」と激励しました。

今回は、震災時の警察活動を新聞報道で知り、昨年9月、県警宛てに感謝の手紙を送った岩手県花巻市の富士大学1年石川百杜巴(もとは)さん(19)らが参加。開始式で「10年経ち見つかっていない人もいるが、ちょっと忘れられている部分もあると思う。私たちの活動が広がり、東日本大震災津波を忘れないでほしい。」と呼びかけました。

海岸では、署員、海保職員、消防署員、石川さんらがレーキやスコップを使い、砂を掘り返して丹念に手がかりを探しました。また、海保の潜水士4人が海に潜り海底で名前が入った遺品や思い出の品等を探しました。

2月に釜石署に着任した岩渕大聖(20)は、「一つでも多くの手がかりを見つけ、不明者家族に届けたい」と力を込めていました。

